

提言書を受けての市長メッセージ 「市役所の中の共創」

このたび、市役所若手職員改革プロジェクトチーム（12名）から、1年間の活動を通して取り組んできた成果として、提言書を受けました。

プロジェクトチームの皆さんには、まずもって厚くお礼を申し上げます。

1年間の活動の中で、多くの時間をかけて職員同士で語り合い、また、チーム内においても日々熱い議論を繰り返し、時にはチーム内で意見がぶつかり合うこともあったとお聞きしています。

このような皆さんの努力と、「宇部市役所を変えたい」という熱い思いを結集し作られたこの提言書を見て、私も職員の先頭に立って本市の組織改革に真剣に取り組んでいくという思いを改めて強く持ったところです。

提言書では、宇部市役所が体質的に抱える深淵的な課題が示されるとともに、「多様な働き方」「適材適所の人事配置」「職員同士のコミュニケーション」等に多くの課題があると指摘されています。

そして、これらの課題を解決し宇部市役所を改革していくためには、組織内において「心理的安全性が保たれている」ことが、最も重要であると示されています。

言われるように、今の宇部市役所において、自由な議論や危機管理の共有等が十分にできていないことが、職員のやりがい感やモチベーションの低下を招き、ひいては、事務処理ミスの発生や時間外勤務の増加、職員のメンタルヘルス不調にも繋がっているように感じます。

これらの状況を改善していくため、既に様々な職員と語り合う場として、「圭二の部屋」を開設し対話を行っていますが、まだまだ十分とは言えません。価値観、年齢、役職等が違う職員間においても、しっかりと自身の考えや意見を発言できる場所や仕組み等を整え、職員同士が相互の信頼関係により仕事ができる、そのような市役所に変わっていく必要があります。

また、提言書に示された、職員の心の余裕・体力の回復を目的とした「リアルガチ事業スクラップ」や、職員の働きやすさ・働きがいを進めていくための「個人の強みを組織に活かす」取組においても、新たな施策の立案や事業・業務の改善、見直し等を進めていく必要があります。

既に総務部に対しては、

- ・全職員を対象とした心理的安全性の確保のための研修会の開催
- ・職員の人材育成等を目的とした「職員サポート制度」の創設
- ・人材育成や適材適所に配慮した人事異動制度の見直し等について、着手するよう指示したところです。

宇部市役所とそこで働く職員の皆さんの未来にとって、この提言書を実践していくことは非常に大事なことと思いますので、職員一人ひとりがこの提言書をしっかりと読み、理解し受け止めるとともに、私と一緒にやりがいと誇りを持てる宇部市役所の変革に取り組んでいきましょう。